

2013 年度
帆かけサバニを地域資源として活用した
名護湾地域活性化プロジェクト
事業報告書

事業実施：特定非営利活動法人 ホールアース研究所沖縄事務所
実施協力：フォーカキサバニ

助成： 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

目次

事業報告概要

1. 事業概要

2. 事業の記録

2-1 帆かけサバニ操船、保存技術の講習 参加者募集

2-2 帆かけサバニ操船、保存技術の講習 全12回 記録

2-3 地域イベント 運営

2-4 作成物

3. 今後の展望

<事業報告概要>

事業の目的

「帆かけサバニ」は、海人が主に漁をするために進化してきた木造帆船である。戦後、機械（エンジン）の導入によって、急速にその数が減少し、造船技術・操船技術までもが完全に失われようとしている。

そこで、沖縄本島北部、東シナ海に面した良湾である名護湾に「帆かけサバニがいつも浮かんでいる風景」を実現するため、サバニの操船技術、保存方法を学び、上記を実現可能な人材を育成していく。

また、サバニという存在を地元の人、沖縄の人、全国の人に知ってもらい、もっと多くの方が気軽に海にでることで、サバニで遊ぶ環境の基盤を固め、沖縄の観光資源素材として定着させていく。

その結果、高齢化したサバニ舟を製造ができる船大工の継承者を育てる環境が整い、サバニ文化の次世代への継承が可能となっていく。

事業の記録

1. 帆かけサバニ操船、保存技術の講習 全12回*

第1回	4月14日(日)	講習ガイダンス	名護中央公民館、名護博物館にて	参加者17名
第2回	4月28日(日)	イベント「まんまる市」乗船体験	名護湾にて	参加者14名
第3回	5月19日(日)	操船練習	名護湾にて	参加者10名
第4回	6月9日(日)	操船練習	名護湾にて	参加者12名
第5回	6月30日(日)	座間味レース観戦		参加者4名
第6回	8月4日(日)	操船練習	本部新港～水納島クルージング	参加者11名
第7回	8月24日(日)	環金武湾レース出場		参加者4名
第8回	9月1日(日)	(荒天の為)室内講習	あけみおSKYドーム研修室にて	参加者3名
第9回	9月22日(日)	南城市長杯レース出場		参加者8名
第10回	9月28日(土)	イベント「ブルーラグーン」乗船体験	名護湾にて	参加者5名
第11回	9月29日(日)	イベント「ブルーラグーン」乗船体験	名護湾にて	参加者7名
第12回	10月27日(日)	操船練習	名護湾にて	参加者6名

*全16回予定であったが、全12回に変更。

2. 地域イベント 運営

- ・4月28日(日) イベント「まんまる市」にて一般参加者 乗船体験サポート
主催：フーカキサバニ 一般参加者数 約300名
- ・9月28-29日(土-日) イベント「ブルーラグーン」にて一般参加者 乗船体験サポート
主催：BeachRockVillage / office-bluelagoon 一般参加者数 約100名

補足事項

全 12 回の『帆かけサバニ操船技術講習』実施、及び地域イベントにおいて、帆かけサバニの乗り手を増やし、その魅力を多くの人へ伝え、後世へ残していきたいと実践しているフーカキサバニの協力の下で本事業実施となった。

ホールアース研究所沖縄校は、広報や事務局作業を中心に担う体制で実施した。

フーカキサバニ <http://f-sabani.net/>

講師：森 洋治氏

主なレース実績（座間味帆かけサバニレース）

- 2003年 準優勝
- 2004年 優勝
- 2005年 優勝
- 2006年 準優勝
- 2007年 3位
- 2008年 準優勝
- 2009年 優勝 女海想 3位
- 2010年 古式部門 優勝（総合3位）女海想 準優勝
- 2011年 古式部門 優勝（総合2位）女海想 準優勝
- 2012年 古式部門 優勝 女海想 準優勝

その他レースや、名護市、恩納村を中心に体験乗船会開催等、活動中。



1. 事業概要

1-1 事業の目的

「帆かけサバニ」は、海人が主に漁をするために進化してきた木造帆船である。戦後、機械（エンジン）の導入によって、急速にその数が減少し、造船技術・操船技術までもが完全に失われようとしている。

そこで、沖縄本島北部、東シナ海に面した良湾である名護湾に「帆かけサバニがいつも浮かんでいる風景」を実現するため、サバニの操船技術、保存方法を学び、上記を実現可能な人材を育成していく。

また、サバニという存在を地元の人、沖縄の人、全国の人に知ってもらい、もっと多くの人が気軽に海にでることで、サバニで遊ぶ環境の基盤を固め、沖縄の観光資源素材として定着させていく。

その結果、高齢化したサバニ舟を製造ができる船大工の継承者を育てる環境が整い、サバニ文化の次世代への継承が可能となっていく。

1-2 事業の目標

1. 多くのイベント・行事に帆かけサバニを操船できる人材、サバニ舟を保存できる人材を確保し、地域の文化財として次世代へと継承していく。また、「帆かけサバニが浮かぶ名護湾」の文化的景観として保存していく。
2. 帆かけサバニが地域の文化財として定着し、他文化（衣、食、宿）と融合して総合的な地域の魅力としての観光資源となり得ることを目指す。

1-3 事業内容

1. 帆かけサバニ操船、保存技術の講習

- (1) 時期 : 2013年4月～2013年3月（7月除く） 計12回*

*当初計画は全16回だったが、全12回に修正。毎回準備する船の艇数を増やした。

- (2) 場所 : 名護市海岸流域

- (3) 参加者想定 : 約10名（大学生、地域住民、等）

- (4) 内容 : 帆かけサバニの操船及びメンテナンス方法を実践（練習、体験会、レース参戦）し、学ぶ。

2. 地域イベント（上映会、体験会等）運営

- (1) 時期 : 2013年春、秋（地域イベント4月、11月の場にて） 計2回程度

- (2) 場所 : 名護市21世紀ビーチ

- (3) 参加者 : 約100名/回（一般、地域住民等）

- (4) 内容 : 地域のイベントでのマリンアクティビティの一つとして、講習受講者による帆かけサバニ体験会を実施し、地域行事の一躍を担う。

2. 事業の記録

2-1 帆かけサバニ操船、保存技術の講習 参加者募集

帆かけサバニに乗船する機会を増やし、現存する帆かけサバニの現状が理解できるよう、年12回の講習会参加者の募集を2013年3月より開始した。

募集にあたって、以下の手法にて沖縄県内に広く発信した。

- ・ 沖縄県内 メディア関係者へプレスリリース発信、「琉球新報」掲載
- ・ 沖縄県内 情報誌「レキオ」等 参加者募集掲載
- ・ フーカキサバニ 関係者へ募集メール配信
- ・ ホールアース自然学校沖縄校 ブログ掲載、関係者へ募集メール配信

参加者募集の結果、2013年4月開始時点で参加希望者23名となった。

想定10名よりも多人数となり、より多くの方々にサバニの魅力を伝える為、毎回の講習時に船を1隻から2隻の準備体制へ変更した。これに伴い、講習回数も全16回から全12回へと変更に至った。

以下は、講習開始（2013年4月）時点の参加者内訳である。

本格的に操船できる人材育成を目指した為、通年参加を前提に募集した。

サバニ操船経験	
あり	7名
なし	16名

男女比	
男性	19名
女性	4名

年齢層	講習開始時 計23名
10代	1名
20代	4名
30代	3名
40代	5名
50代	6名
60代	2名
不明	2名

※尚、講習開始2013年4月時点では23名集まってはいたが、毎回の講習には10~15名の参加と各回で変動があった。

2-2 帆かけサバニ操船、保存技術の講習 全12回

◆第1回4月14日(日)講習ガイダンス 名護中央公民館、名護博物館 参加者17名

初回の講習では、室内にて「講習ガイダンス」を行なった。講習参加希望者計23名のうち17名が参加し、お互いの自己紹介の上、一年を通じて講習仲間となる認識を深めた。

又、冬季までの講習スケジュール予定を説明し、毎回、海洋のフィールドへ出る為の注意点、心構え、準備物等の確認を行った。

あいにくこの日は、雨と強風で天候に恵まれなかった為、午後からは名護博物館内へ移動し、展示されているサバニ舟を見学しながら、サバニ文化の学びの場となった。

【 当日スケジュール 】

- 09:00 名護中央公民館集合
- 09:00~10:00 自己紹介(所属、サバニ経験、海洋での経験、特技等を共有)
- 10:00~12:00 講習ガイダンス (全講習のスケジュール予定、注意点等確認)
- 12:00~13:30 昼食
- 13:30~16:00 名護博物館内にて サバニ舟見学、質疑応答 など



◆第2回4月28日(日) イベント「まんまる市」乗船体験 名護湾にて 参加者14名

地域イベント「まんまる市」にて一般向け乗船体験を実施した同じフィールドにて、2回目の講習を実施した。サバニ舟に初乗船の受講生も多くおり、まずは“乗って楽しむ”機会とした。

異なる大きさのサバニ舟数隻の準備から、一般向け体験乗船のサポート、片付けまでの一連を知ることで、サバニ舟への愛着を徐々に感じてもらうことをねらいとした。

【 当日のスケジュール 】

- 08:15 名護湾集合
- 08:30 サバニ組み立て、漕ぎの学習
- 09:00 名護21世紀の森ビーチへ サバニで海上移動
イベント体験乗船準備
- 10:00 一般向け体験乗船受入開始(乗船サポート)
- 11:30 昼食・休憩
- 13:00 一般乗船サポート・操船学習など交替で実施
- 16:00 サバニを海上移動、片付け
- 17:00 解散



◆第3回 5月19日(日) 操船練習 名護湾にて【荒天時ロープワーク】 参加者10名

5月中旬、3回目の講習は、時々大雨で天候に恵まれず、サバニ舟を用意したものの、屋根下でのロープワーク学習が主となった。講師：森氏から時と場合に適したロープワークを習い、いつでも実践できるよう受講生は繰り返し練習。知っているスキルを受講生同士お互い教え合う場面にもなった。

雨があがったタイミングで海上にでたが、乗船の練習は2時間程度だった。

【 当日のスケジュール 】

09:30 名護湾集合

雨の為、ロープワーク練習

10:30 サバニ操船練習

11:30 昼食・休憩

13:00 サバニ操船練習

14:00 雨の為、ロープワーク練習

16:30 片付け後、解散

※書籍「沖縄の舟 サバニ SABANI Canoes of Okinawa」(白石 勝彦〔著〕ほか)が、受講生へ紹介された。



◆第4回6月9日（日）操船練習 名護湾にて

参加者12名

まだ梅雨明けしていない不安定な名護湾の空の下で、操船練習を実施。海上へ出る前に、「風のおよみかた」、「帆の操船時のイメージ作り」、模型を使って「船体部位名称、機能」並びに、様々な天候や海況での体験談など、講師：森氏による講義の時間をとった。

その後時間をかけて、帆、アウトリガーの組み立て、長距離の場合の漕ぎ方など学び海上に出た。操船担当を交代しながら、受講生全員が沖まで出たの操船講習となった。

【 当日のスケジュール 】

09:30 名護湾集合

基礎講習（風のおよみかた、操船イメージ作り、船体部位名称&機能等）

11:00 帆、アウトリガー組み立て 学習

11:30 サバニ操船練習

12:30 昼食・休憩

13:30 サバニ操船練習

17:00 片付け

17:30 解散



◆第5回6月30日(日) 座間味レース観戦

参加者4名

5回目の講習は、実際の「レース観戦」となった。毎年、座間味島スタート・那覇ゴールのコースで開催されている「第14回サバニ帆漕レース」に同行し、フーカキサバニのメンバー皆さんなどから成る出場チームの伴走船に乗って観戦した。

前日に座間味島入りが望ましい為、日程的に受講生の参加数が限られたが、出場した34チームを海上で観戦し、各チームの操船、漕ぎなど特性が知れる年に一度の貴重な機会となった。

【 前日・当日のスケジュール 】

サバニ帆漕レース 公式サイト：http://www.photowave.jp/sabani_s/index.html

観戦時には、チーム「やんばる」「女海想」「サバニトリップ」を主に観戦。

<29日(土)>

座間味島入りし、「プレレース」の観戦、古座間味ビーチでの練習、ビーチクリーン等に参加。夕刻には、講習生4名もサバニに乗船。

<30日(日)>

09:00 座間味レース・スタート。チーム「やんばる」の伴走船1隻に講習生4名とスタッフ等が乗船し、レース観戦、応援。座間味島～那覇を約3時間40分観戦した。

12:40 観戦したチーム「やんばる」が、2位で那覇にゴール。夕刻に表彰式、解散。



◆第6回 8月4日（日） 操船練習 本部新港～水納島クルージング 参加者11名

多くの受講生にとって約2ヶ月ぶりの海上での練習。好天に恵まれ、クルージングに適した条件下で名護市の隣町である本部町の港に集合し、7Km先に浮かぶ水納島往復の練習となった。中距離を経験することで、次回講習のレース出場に備えた。

【 当日のスケジュール 】

- 09：30 本部町本部新港集合
- 10：00 新港出港（サバニ舟2隻にて 昼食、飲料を船に積載）
- 12：30 水納島到着～島内で昼食（各自持参の弁当にて）
- 13：30 水納島出航
- 15：30 新港到着後、片付け、ふりかえり
- 16：30 解散



◆第7回 8月24日(日) 第2回環金武湾帆掛けサバニレース出場 参加者4名

8月17日(土) レース事前ミーティング実施 名護中央公民館にて

環金武湾レース出場を控え、レース1週間程前に事前ミーティングを実施。レース出場自体が初めての方が多く、当日の想定コース、予想される天候と対策など確認し合った。



【 環金武湾レース 当日のスケジュール 】

07:30 金武湾 集合

サバニ舟準備後、待機

10:45 レース・スタート

13:50 チーム「あけみお」 ゴール

16:00 表彰式後、解散

レース当日は晴天に恵まれたが、風向き等の判断から、Bコースでレース開始。講習生5名にフーカキサバニメンバー3名がサポートに入り、チーム「あけみお」として出場。10チーム程出場の中、チーム「あけみお」は、約3時間5分のタイムで初出場ながら3位入賞。

『第2回環金武湾帆掛けサバニレース結果』:<http://ayakaji.helms.jp/race/kinbayrace.html>

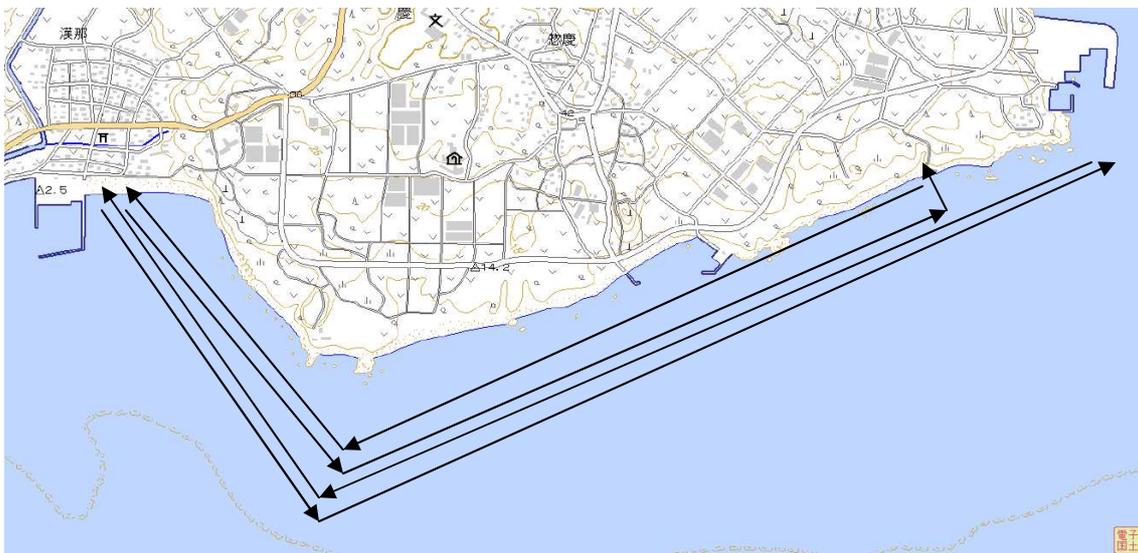


＝「第2回環金武湾帆掛けサバニレース」 想定されたコース図＝

Aコース：漢那ビーチスタート後、伊計島大橋をくぐり、漢那ビーチに戻る（約21Km）



Bコース：漢那ビーチ～宜野座漁港往復後、再び宜野座漁港に向かい手前で西瓜を積み込み、漢那ビーチに戻る（約15Km）



◆第8回9月1日（日）室内講習 あけみおSKYドーム研修室にて 参加者3名

低気圧が近づいて荒波が立つ海況の為、8回目の講習は室内にて実施。サバニ模型、海図、コンパス、定規等使いながら長距離帆走の計画の立て方、実際のサバニ舟での旅の映像鑑賞を行なった。天候が影響して参加者は少なかったものの、長距離のサバニ舟の旅の魅力が知れる一日となった。

【 当日のスケジュール 】

09:30 名護市 あけみおSKYドーム 研修室 集合

映像鑑賞（鹿児島～宮崎、与那国島附近のサバニの旅 など）

12:00 昼食・休憩

13:00 海図の読み方、コース計画の立て方 学習

16:00 解散



◆第9回9月22日(日)「第4回南城市長杯レース」南城市玉城奥武島 参加者8名

近づいていた台風の影響で、朝から強風、荒波の海況で当初予定されていたコースをショートコースに変更された「第4回南城市長杯帆掛けサバニレース」に、チーム「あけみお」として出場。こうした天候の際、海上へ出る前の判断、懸念される点など参加者同士で確認し合う時間をとった上でサバニ舟を準備。講師：森氏が乗船するものの、講習生ばかりのメンバー構成でレースに出場し、決勝戦まで勝ちあがった。17チームが出場し、結果、チーム「あけみお」は6位。入賞ならずとも、難しい海況の中、講習生は敢闘した。

「第4回南城市長杯帆掛けサバニレース」: <http://www.sabanisailing.com/index.html>

【 当日のスケジュール 】

- 07:30 南城市奥武島港湾内集合
天候判断の為、待機
- 09:00 コース確定後、サバニ舟準備開始
- 11:00 レース開始 <1回戦 レース出場>
- 12:30 昼食・休憩
- 13:30 決勝戦 <上位と競うレース出場>
船片付け
- 16:30 表彰式後、解散



◆第10回9月28日(土) イベント「ブルーラグーン」乗船体験 名護湾 参加者5名

講習終盤に近づいた10回目は、アウトリガーなしの単船を体験する機会とした。単船でのバランスの取り方、漕ぎ方などを習いつつ、操船感覚を知る時間となった。同時に一般向けイベント「ブルーラグーン」開催の場で、交替で、一般の乗船体験をサポートする時間とした。

【 当日のスケジュール 】

- 08:00 名護湾 集合、挨拶、イベント説明
- 08:30 サバニ出航、21世紀の森ビーチへ
- 09:30 イベント会場テント設置、一般受入準備
準備後、各自で操船練習
- 10:00 ビーチクリーン参加(イベント主催者 誘導)
- 11:00 一般体験者 受入・サポート
各自で昼食
- 16:00 片付け、サバニ搬送
- 17:30 解散



◆第11回9月29日(日) イベント「ブルーラグーン」乗船体験名護湾 参加者7名

連日のイベント開催の場で、単船の講習を同時に実施。講習生は、穏やかな海況で自由に単船に挑戦できる環境下で各自が単船操船の練習。講師：森氏の指導が所処で入った。交替で、一般向け体験乗船のサポートにも入り、乗船の楽しさを広げる機会にも加わった。

【 当日のスケジュール 】

- 09:00 名護湾集合、挨拶、イベント説明
- 09:20 サバニ舟移動、21世紀の森ビーチへ
- 10:00 ビーチクリーン参加（イベント主催者誘導）
- 11:00 単船操船の学習
一般体験者の受入サポート
各自で昼食
- 16:00 片付け、サバニ搬送
- 18:00 解散



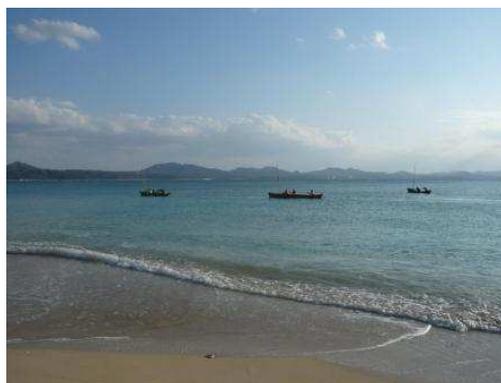
◆第12回 10月27日(日) 操船練習 名護湾にて

参加者6名

10月初旬に実施予定だった最終回の講習が台風で延期となり、10月下旬に実施。
講習終盤に練習してきた単船操船の総まとめの講習。自身で操船する時間を多くとり、経験を高める時間となった。終了時は、3隻の船でミニレースを実施し有意義な時間となった。

【 当日のスケジュール 】

- 09:00 名護湾集合、挨拶
- 09:10 単船準備、説明
- 09:30 操船練習 (1隻に2~3名乗船)
- 12:30 昼食・休憩
- 13:30 操船練習
- 15:30 短距離レース体験
- 16:30 片付け・ふりかえり
- 17:00 解散



2-3. 地域イベント 運営

◆4月28日(日) イベント「まんまる市」にて一般参加者 乗船体験サポート

主催：フーカキサバニ 一般参加者数 約300名

これまでも恒例で実施されている一般向けサバニ乗船体験イベント。事前に、広告掲載等で更に広く一般向け告知をし、当日には受付・会計業務等ホールアース研究所沖縄事務所スタッフが担った。フーカキサバニのメンバーによって、船の準備、乗船サポートなどが行なわれ、時間制の予約が昼過ぎには全て埋まるほどの人気の場であった。

「帆かけサバニ遊び」 in やんばる



体験乗船・舵取り体験・フジレース!!

沖縄の海へ出てみたい皆さん!!
やんばる、名護の海で「帆かけサバニ」
の乗船を体験してみませんか?



日時：4月28日(日) 10時～16時
参加費：おひとり 500円
場所：名護21世紀の森ビーチにて
(まんまる市同時開催)

主催：フーカキサバニ
事務局 090-2585-6087



◆「帆かけサバニ操船技術」講習
の受講生も募集しています!
(初回4月14日実施)

お問合せ・受付窓口：
NPOホールアース研究所沖縄事務所
e-mail:okinawa@wens.gr.jp
電話：0980-58-3536

情報誌「レキオ」 2013年4月11日号 広告掲載

「帆かけサバニ遊び」 in やんばる



体験乗船・舵取り体験・フジレース!!

沖縄の海へ出てみたい 皆さん!!
やんばる、名護の海で「帆かけサバニ」の乗船
を体験してみませんか?

日時：4月28日(日) 10時～16時

参加費：おひとり 500円
場所：名護21世紀の森ビーチ (まんまる市同時開催)
主催：フーカキサバニ 事務局 090-2585-6087

◆「帆かけサバニ操船技術」講習
受講生も募集しています!
お問い合わせ・受付窓口：
NPOホールアース研究所沖縄事務所
電話：0980-58-3536 E-mail: okinawa@wens.gr.jp

情報誌「週刊 ほーむぷらざ」 2013年4月11日号 広告掲載

◆9月28-29日（土-日）イベント「ブルーラグーン」にて一般参加者 乗船体験サポート

主催：Beach Rock Village / office-bluelagoon 一般参加者数 約100名

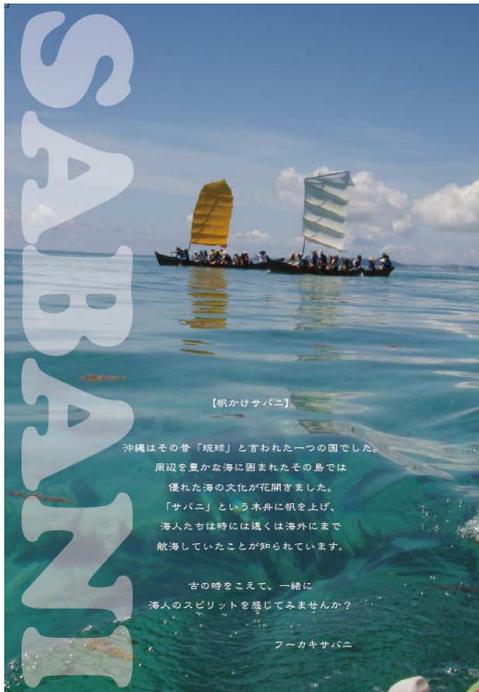
二日間連日で開催された名護市内の地域イベント「ブルーラグーン」にて、一般向けの体験乗船が行なわれ、当日の受付業務等運営サポートを行なった。フーカキサバニがサバニ2隻を約9回海上に出して、親子や年配の方々など幅広い年齢層に乗船を体験してもらった。

主催者イベント告知サイト：<http://bluelagoonfes.ti-da.net/e5355661.html>



2-4. 作成物

イベント来訪者などへ「帆かけサバニ」について更に詳しく知ってもらうことを目的とし、ウェブサイトアドレス等を記載したリーフレットとステッカー2点を作成し、配布した。



配布用リーフレット（表）



（裏）



配布用ステッカー 作成

3. 今後の展望

急速に失われかけている木造帆船「帆かけサバニ」という存在を地域の人々、沖縄県内の多くの人々に知ってもらう為、沖縄本島北部の名護湾に「帆かけサバニがいつも浮かんでいる風景」を実現すべく、約7ヶ月間に渡る『サバニの操船技術講習』実施及び地域イベント運営サポートが可能となった。

乗船するために必要なサバニ舟、資材、技術、運搬作業のすべてを惜しみなくフーカキサバニの皆さんが準備くださり、サバニに馴染みがない人々にとって大きな負担がかからないよう、まずは“楽しめるもの”という視点を大切にしながら指導にご尽力頂いた。

天候等の考慮もあり、講習生全員の日程調整は容易でなく、多人数の参加が適わなかった回もあったが、サバニに乗船し学べる機会を逃したくない、と意欲的な講習生ばかりで、最終回では、沢山の感謝の言葉を講習生から頂いた。

この全12回の講習と地域イベント運営サポートによって、より気軽に海に出る機会を生み出し、サバニに触れる環境づくりへ一助できた7ヶ月間であったと言える。

一方で、本事業で目指した目標である“サバニ舟の操船・保存できる人材確保”や“地域の文化的景観という姿で観光資源素材として定着させる”には、まだ道のりがあり、多くの可能性が残されているといえる。むしろ、この7ヶ月間で関わって頂いた講習生やイベント参加者、ほか関係者とのネットワークが、今後も更に継続して生きていくことこそが、目標に近づく不可欠要素ともいえるだろう。

本事業を通じて関わって頂いた方々などが、今後はフーカキサバニさん独自での取り組みにも繋がって、更にサバニ舟に触れる機会を持続し、新たな展開をもたらすことをホールアース研究所沖縄事務所は期待を寄せる次第である。

最後になりましたが、本事業実施にあたって、フーカキサバニ 講師：森洋治氏、荒木瑞枝さん、他メンバー皆さまの惜しみない多大なご尽力を頂き、ご指導下さったことに厚く御礼申し上げます。